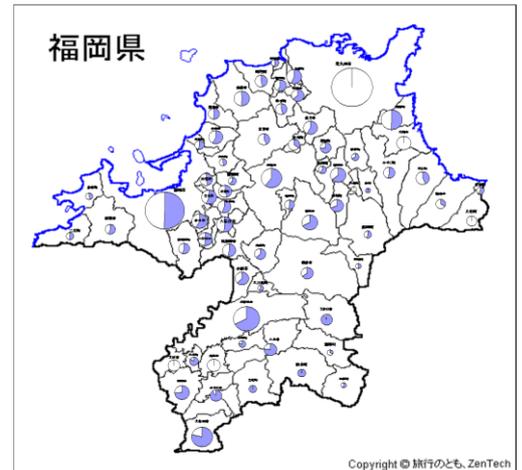


【ポスター発表（4）】

団体名：NPO 法人 女性エンパワーメントセンター福岡

I 当団体は、女性の人権が尊重され共に生きる地域と世界を目指して活動しています。

- 1、 女性への暴力防止と支援（DV シェルターの運営など）
- 2、 移住女性の支援
  - ① 多言語での相談や通訳・サポート
  - ② 外国語教室（タイ語、インドネシア語など 9 言語）
  - ③ 日本語教室の開設（八女市、直方市など 10 教室）
- 3、 国際協力と平和活動
  - ① 自立支援・フェアトレード（タイ、ネパールなど）
  - ② 戦時性暴力の防止・交流（アフガニスタンなど）



II 福岡県の現状

- 1、 外国籍住民は県内全域、特に女性は農山村など周辺部に散住しています。（図上）
- 2、 日本語教室は、福岡市約 50 教室、北九州市約 20 教室、他は 27 教室
- 3、 内 10 教室は、2007 年以降県等と協力し当団体が立ち上げサポート
- 4、 政令市以外の教室は、広い地域に教室は一つで、市のサポートがない教室もあり、学習者の交通、ボランティアの継続、研修など困難も抱えている。



⇒当事業の必要性

III 福岡県における 都市圏から離れて散在する日本語教室の体制整備 とは

取組 1：福岡県日本語教室ネットワークの開催

（写真：3 月 15 日）

取組 2：地域に親しみ・つながる日本語教室

取組 3：福岡県日本語教室ガイドの作成（図下）

取組 4：日本語教室ボランティアのための研修



NPO 法人 女性エンパワーメントセンター福岡

〒810-0001 福岡県福岡市中央区天神 4-9-12 光ビル 3D

TEL/FAX : 092-738-0138

E-mail : empower\_f@ybb.ne.jp

[ウェブサイト]http://www.geocities.jp/empower\_f/

[facebook] https://www.facebook.com/empowerment4women

[twitter] https://twitter.com/empower4woman

平成 25 年度「生活者としての外国人」のための日本語教育事業  
地域日本語教育実践プログラム B

ポスター  
セッション

<b>事業名称</b>	福岡県における 都市圏から離れて散在する日本語教室の体制整備			
<b>地域の課題</b>	県内の都市圏を除く地域に「生活者としての外国人」は広く散住しており、彼らのための日本語教室もほとんどは地域の力で立ち上げられ運営されている。それらの教室は、都市圏から遠く離れているところも多くあり、日本語教室へのサポートも届きにくい状況にある。個々の教室が抱えている課題を解決し、継続的に運営されていくためにも日本語教室を支援する体制が必要である。			
<b>事業の目的</b>	地域で生活者している外国人への日本語支援を推進するための連携と体制整備。県内の都市圏から離れて独自に活動する日本語教室にネットワークをよびかけ、教室間の情報交換や助け合うつながりを作り出していくことで、日本語教室活動の活性化を図り、支援協力体制を強化することを目指す。			
<b>事業内容</b>	<b>取組1</b>		<b>取組2</b>	
	名称	福岡県日本語教室ネットワークの開催	名称	地域に親しみ・つながる日本語教室
	内容	福岡県内の非都市圏の全日本語教室(2013年現在 24教室)に呼びかけて、福岡県日本語教室ネットワークを立ち上げるための会議を開催する。	内容	久留米市と糸島市で日本語教室を開催する。文化庁の「カリキュラム案」を活用し、実体験を取り入れ、地域の状況に応じた形で日本語を学習する。
	対象	日本語教室関係者	対象	在住外国人、簡単な日本語がわかる人
	時間	1回 3時間	時間	1回 2時間×20回(全40時間)
	人数	30人	人数	27人
	<b>取組3</b>		<b>取組4</b>	
	名称	福岡県日本語教室ガイドの作成	名称	日本語教室ボランティアのための研修
	内容	福岡県内の非都市圏の日本語教室のガイド(一覧)を作成する。5000部印刷し、各市町村の住民登録窓口や母子保健担当課等に配布してもらい、学習者募集に役立てる。	内容	文化庁の標準的なカリキュラム案等について知り、久留米と糸島の日本語教室の実施を通して、自分たちの教室活動に活かしていけるように内容を検討し考える。
	対象	外国籍住民、および 関係機関	対象	日本語教室ボランティア 指導者
		時間	15時間 (全6回)	
		人数	30人	
<b>連携体制</b>	政令都市を除く県内の日本語教室、福岡県、福岡県国際交流センター、久留米市、久留米市消防署、子育てマイスター、糸島市、糸島市消防署、糸島と柳川の市民ボランティア、			
<b>成果と課題</b>	<p><b>成果</b>：①県内の非都市圏の日本語教室のネットワークが立ち上がった。②教室ガイドマップを作成し、各市町村の関係部署に配布できた。③関係機関やボランティアと連携し、体験型の日本語教室の活動ができ、学習者が地域を知り、つながる機会を創出できた。</p> <p><b>課題</b>：立ち上がったネットワークをどう機能的に継続させていくか、日本語教室の実施や研修で得た成果を各地域の日本語教室にどうつなげて活用してもらうかが課題である。</p>			
<b>発表者から一言</b>	日本語教室の体制支援のための「日本語教室ネットワーク」についてご報告し、「教室ガイドマップ」を資料として持参します。文化庁のカリキュラム案等を使用した行動、体験中心の教室活動は日本語指導者にとっても初めての経験でしたが、定住外国人が地域とつながり暮らしていけるように教室ボランティアと共に取り組んだ活動内容についてご紹介します。			